

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

360 度の展望 樹氷咲く富士見台高原2 (飯田高校 杉山昭久先生寄稿)

展望台からは、先行者が無く、真っ白な世界が続いている。富士見山への分岐で2人と別れ、自分は富士見山へ。2人はそのまま林道を萬岳荘へ向かう。分岐から標高差 60m。深雪を踏みながらジグザグに登る。尾根通しに続く道は、ふわふわで気持ちいい。今年は特に雪が多い。木々に張り付いた樹氷が青い空に映える。15分ほどで富士見山山頂。西へは恵那山へのアプローチ道が伸びている。北に目を転じれば、昨年噴火した雪をいただいた御岳山が白い噴煙をあげている。乗鞍、御岳を仰いだ後、さらに尾根づたいに進む。何とも心地よい。しばらくの後、林道に下り、先行した2人のスキーのトレースの跡をさらに足を進める。旧御坂峠を過ぎ、萬岳荘まであとわずか。



萬岳荘で2人に追いつく。萬岳荘は今では誰もなく、静かなたたずまいを見せている。1本とった後、3人で富士見台山頂に向け出発。スキーで先行する羽場さんジュニアは、自分が履くシューよりやはり早い。一方、彼女はスキーが初めてのこともあり、我々の後方で必死に登っている。彼女の明るい声が静寂の世界に響く。12:00 山頂。北からの強い風の影響で、山頂道標には「エビのしっぽ」なる樹氷がびっしりとくっついていて、

2人は履いてきたスキーを何か、いじくっている。何をしているかと思えば、2本の板を平行に並べ、今履いていたスキー板を「ボード」に変えているのであった。板から金具から、道具はものすごいスピードで進化している。驚きであった。

2人が下る準備をしている間に、シューの自分は一足先に下ることにする。今来たトレースの跡を下る。この時期、何度か訪れてはいるが、その時は常に、御坂山経由で萬岳荘に下るか、山頂から尾根づたいに西に向かい、萬岳荘上部の尾根を旧御坂峠に下るルートをとることが多いが、今日はそのまま林道経由で戻ることにする。



山頂からの下りで、高齢の登山者2人と出会う。萬岳荘から旧御坂峠までは緩やかな下り。そこから展望台までは林道を登り続けなくてはならない。足の付け根が少々痛む。プラブーとスノーシューが結構重い。途中の山斜面で、今朝、駐車場で山の準備をしていた男女の学生のグループが、スノーシューやら簡易のそりで、深く柔らかい雪を楽しんでいた。今日の予定は、萬岳荘までのことであった。

13:30 リフト上部の見晴らし台に到着。前方に南アルプス(塩見、荒川、赤

石、聖、上河内、光、池口・・・)の山並みが脈々と続いている。青い空とのコントラストが素晴らしい。この山並みを眺めながらお湯を沸かし、ラーメンをすすする。ちょっと遅い昼食だ。本来、山頂直下の御坂峠小屋で昼食をとることが多いが、今日はここまで足を伸ばした。

14:00 ここからリフト沿いに下り、途中から羽場さんらが作ったスノーシューコースを下る。結構な急斜面ではあるが、気持ちのいいコースだ。兎の足跡が所々に転々と続いている。まっさらな深い雪の中、雲の上を歩いているような快適さを覚えながら快適に下る。下りれば、静岡県から来た、スキー修学旅行の高校生らがゲレンデを埋めていた。今日は、快適な1人山行でした。2月は生徒との富士見台。(2月 杉山)

大町高校山岳部 日本山岳遺産基金

「美しい山を次世代に」をキャッチフレーズに、株式会社山と溪谷社が中心となって、2010年に設立された日本山岳遺産基金をご存知だろうか？この基金は、日本の山々がもつ豊かな自然・文化を次世代に継承していくために設立されたもので、「次世代育成活動」「山岳環境保全活動」「安全登山啓発活動」を目的に、趣旨にあう「日本山岳遺産」活動に対しての活動助成やキャンペーンなどを行っている。「日本山岳遺産」とは、同基金のHPによれば、「次世代に伝えたい豊かな自然環境や、人と自然の関わりを有し、それらを守り、活用するような地元の活動が盛んな山や山岳エリアを、日本山岳遺産基金が認定するもので、地域からの自薦にもとづき、日本山岳遺産基金事務局が外部有識者のアドバイザー・ボードからの意見を参考にして決定する。」というものである。

手前味噌で恐縮だが、このほど大町高校山岳部の「楯ノ峰」登山道整備事業が今年度の「日本山岳遺産の認定地と支援団体」として認定された。今年の認定は他に「福島県吾妻山の吾妻倶楽部の山岳環境保全活動」「古道徳本峠道を守る人々の登山道整備」の2件である。本校の楯ノ峰登山道の整備事業は2001年学校創立100周年記念事業の一つとして山岳部が当時の顧問松田大先生の指導の下、取り組んで以来の事業である。すでにこのかわらばんでも何度もご紹介しているが、来年度以降の活動補助には本当にありがたいお話をいただけたと思っている。これは、ひとり今年の山岳部の活動ではなく、松田さん以後ずっとこの活動を継続して来た歴代の山岳部顧問、山岳部生徒諸君の汗の賜物である。同基金によれば、選定理由は「地域の里山を守るために高校生らが懸命に活動している点を評価。広く大町市民に愛される山ですが、なかでも『仏崎大町高校ルート』は開設以来、縦走登山ができるコースとして、市民が訪れています。現在、整備費用は生徒会の部費や、クラブ員の自己負担で賄っていますが、器具の不足や老朽化から、買い替えが必要な時期。老朽化した道標の付け替え費用も含めて助成対象とします。」とのこと。せっかくのありがたいお話を部員ともども心から喜びたい。そして、来年度以降この登山道がさらに多くの皆さんに喜んでもらえるものとなるよう、助成金を有意義に使わせていただこうと思っている。

これまで15団体が認定されたが、昨年度の認定団体の一つに「船窪岳と船窪小屋・道しるべの会」がある。この活動の主体の船窪小屋の松沢宗洋さんも大町高校山岳部OBである。大町高校は2016年大町北高と統合して大町岳陽高校になる。OBに続いて現役も認定されたことで、統合前の大町高校に元気を与えていただいた。「岳陽」という名に相応しい山を前面に打ち出した学校として今後も育てていきたいものだ。